

# 日本ラカン協会第9回大会プログラム

日時 : 2009年12月6日(日) 09:00~17:30

場所 : 専修大学神田校舎7号館731教室(3F)  
(〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8)

- 水道橋駅(JR)西口より徒歩7分
- 九段下駅(地下鉄/東西線、都営新宿線、半蔵門線)出口5より徒歩3分
- 神保町駅(地下鉄/都営三田線、都営新宿線、半蔵門線)出口A2より徒歩3分

大会参加費 : 無料

## 1. 研究発表 09:00~11:45 (発表時間30分、質疑応答15分)

09:00-09:45 石崎 恵子 (お茶の水女子大学大学院博士課程)

「精神分析における『絶対的差異』——西田哲学との対比において」

司会 : 伊吹 克己 (専修大学)

概要 : ラカンが精神分析の立場として提示した「絶対的差異を得る欲望」とは、「S / 対象 a」及び「la Loi / les lois」における差異を求めるものであるが、この差異を別の角度から「一般 / 個物」「道徳 / 宗教」の相違として捉えていたと考えられる西田幾多郎の説との対比において、その分岐点から浮き彫りとなる差異の諸相と、日本におけるその可能性を探りたい。

10:00-10:45 太田 和彦 (東京農工大学農学府)

「宮澤賢治と『師』の機能——『セミナーⅡ:自我』を中心に——」

司会 : 福田 肇 (フランス・レンヌ第一大学哲学科博士課程)

概要 : 詩人・宮澤賢治(1987-1936)の心象スケッチ作品には、ほぼ必ずそれぞれの作成年月日が記されている。しかし第三集に収録されている作品1020「野の師父」には、例外的に草稿を含めてその作成年月日が記されていない——。これをきっかけとして、賢治の詩作・推敲における「師」の機能を、ラカンが『セミナーⅡ:自我』で行った「教える者への問い」を主に参照しつつ考察する。そして、「賢治はなぜ推敲し続けたのか？」という前回ワークショップからの疑問に、別の視角からの回答を試みる。

11:00-11:45 柵瀬 宏平 (東京大学大学院総合文化研究科博士課程)

「ラカンによる『ハムレット』読解をめぐって」

司会 : 原 和之 (東京大学)

概要 : シェイクスピアの『ハムレット』は、フロイト以来、精神分析において、エディプス・コンプレックスについて考えるための重要な参照項であった。1959年、エディプス・コンプレックス概念の再構築という作業をひとまず終えたラカンは、この戯曲の読解に着手する。本発表は、ラカンによる『ハムレット』論を分析することで、ラカンによるエディプス・コンプレックス再解釈の内実を検討するとともに、この悲劇の読解を通じてラカンが練り上げた「欲望」概念がいかなるものであったかを明らかにすることを企図する。

2. 昼休み 12:00～13:00

3. 総会 13:00～14:00

- ① 議長選出
- ② 会務報告… 論集刊行に関する報告など
- ③ 決算（2008/2009年度）審議
- ④ 予算（2009/2010年度）審議
- ⑤ 次年度活動計画について

4. シンポジウム 14:30～17:30

### 〈 「いじめ」が終わるときー変動する社会と精神分析 〉

企画・司会 : 磯村 大 (地精会 金杉クリニック)

提題者 : 芹沢 俊介 (評論家)  
「いじめの定義とその力動」

提題者 : 川崎 惣一 (北海道教育大学)  
「いじめの構造分析 中間集団における享楽」

提題者 : 赤坂 和哉 (臨床心理士)  
「いじめの幻想的側面について」

5. 懇親会 (会費 : 5,000 円) 18:00～

於 (未定)

以上